

平成30年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 鞘ヶ谷 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成30年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

※ 本校の5年生は、単学級ですので、個人が特定されるような公表の方法については、配慮しています。

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市の実技調査の結果

<男子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.54	19.95	33.31	42.10	52.15	9.37	152.24	22.15	54.21
本市	16.69	20.49	33.79	42.59	55.22	9.38	154.29	23.74	55.23

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.15	18.96	37.62	40.32	41.88	9.60	145.94	13.77	55.90
本市	16.24	19.41	37.96	40.62	44.39	9.61	147.43	13.93	56.64

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析

質問紙調査の結果から、本校児童は運動やスポーツは大切なものだと思っている。また、家の人も運動やスポーツの大切さを認識しており、児童へ積極的に勧める家庭が多い。さらに、健康に対する意識も高く、「運動・食事・睡眠」を大切だと考える児童がほとんどである。

体育科の授業において、学習内容のふり返りや友達との助け合ったり、話し合ったりする活動等を通して、学んだ内容の大切さを感じることができている。

今後は、体力・運動能力の向上について自分なりの目標を明確にさせることで、より良い運動習慣や生活習慣等を意識させたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

体育科の授業では、体力向上プログラム等を活用した準備運動やゲーム形式による集団運動を取り入れることで運動量の確保と楽しい授業づくりに努めた。また、他教科と同様に体育科の授業においても「めあて」と「振り返り」、話し合い活動等を位置付けた。

今後は、児童一人一人の実態に応じた目標の設定と活動の場づくり等を行うことで、運動に対する興味・関心を高めていきたい。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

全校児童の取組として、1学期に新体カテストチャレンジウィーク、2学期になわとび集会に向けた練習タイム、3学期にさやっ子マラソンに向けたランランタイムを体育主任が計画し、健康委員会が中心となって全教職員協力のもと実施できた。全児童がお互いに声をかけあいながら、積極的に参加することで、体力の向上を図ることができた。今後は、日常的に簡単にできる「体幹トレーニングプログラム」等を作成し、実施していきたい。